
第3回検討部会における意見等について

第3回部会での意見

【視点①】被害想定（複合災害について）

- ・ 土砂災害との複合を想定しておくことも重要。
- ・ 関連死が増加する要因にもなる猛暑との複合事象も注意が必要。

【視点②】被害想定（過去の災害の経験）

- ・ 我々が我がごととして経験した災害である大阪北部地震を踏まえて、被害想定をとりまとめることが重要。
- ・ 能登半島地震で課題となった災害対応従事者のロジスティクスについて、整理することは重要。

【視点③】南海トラフ巨大地震臨時情報

- ・ 臨時情報によって特別な対応を行うのではなく、普段の備えをきちんとすることが重要。
- ・ 今回の臨時情報を経験したことにより、被害を軽減するための事前対策を準備しておくことが重要を認識した。南海トラフ地震は突然起こる可能性の方が遥かに高く、事前対策を日常化させることが重要。
- ・ 臨時情報が出ていない中で発生する可能性の方が高いこと、既に大阪府で被害が発生した中で発表される臨時情報（警戒）もある。今回の出来事から学ぶことも大事だが、あまり縛られ過ぎるのもよくない。

【視点④】津波浸水想定

- ・ 耐震化の進捗により、浸水範囲が大きく変わる可能性があるとはいえ、絶対大丈夫とは言えない。
- ・ 防潮堤の液状化対策について、あくまで解析した結果では堤防が壊れないということであって、絶対大丈夫であると過信してはいけない。

【視点⑤】その他の意見

- ・ 災害関連死について、必ずしも避難所の環境や医療、福祉の観点だけでなく、被災することで、平均余命が短くなるのが原因。災害関連死の問題についても今後議論していきたい。
- ・ 南海トラフ地震が発生すれば、近隣府県も大きな被害となる。大阪府内の状況だけを考えておけばいいのではない。被害を取り巻く状況もあわせて公表することが重要。
- ・ 揺れの継続時間を表現している自治体もある。大阪府は長周期地震の揺れもあるため重要である。

対応方針

- 猛暑との複合事例についても府民へ被害想定をわかりやすく伝えるための災害シナリオ（以下、災害シナリオ）の中で整理する。

- 大阪北部地震や能登半島地震など、過去の災害の状況等も踏まえて、災害シナリオの中で整理をする。

- 南海トラフ巨大地震臨時情報について、災害シナリオを整理する中で以下について留意する。
 - ✓ 臨時情報が事前に発表される場合もあるが、南海トラフ地震が突然起こる可能性の方が高い点
 - ✓ 臨時情報の有無にかかわらず、日頃の備えが重要である点
 - ✓ 既に被害が発生した状況下で臨時情報が発表される可能性もある点

- 津波浸水想定条件設定について、今後シミュレーション結果と併せて議論いただく予定

- 災害関連死の発生原因が避難所環境や医療・福祉の観点だけでなく点について、災害シナリオの中で、府民へのメッセージとして整理する。
- 国が公表する被害想定なども踏まえ、南海トラフ地震が発生した際の大阪府を取り巻く状況として、災害シナリオで整理する。
- 揺れの継続時間について、長周期地震動の項目や災害シナリオの中で整理する。

第3回部会での意見

【視点⑥-1】府民への伝え方（災害シナリオ）

- 個人の行動を変えてもらうような見せ方、伝え方について検討すべき。
- 住民の意識を変え、行動変容を促すようにとりまとめることが重要。
- 自分の生活が長期間どうなるのかをイメージできるような伝え方を検討。
- 行動次第で結果を変えることが出来るといったメッセージを出すことが重要。
- 自助、共助によるアクションがある場合と無い場合の最低2つ作成し、自助、共助によって被害が少なくなることを府民に理解してもらい、行動につなげてもらう。
- 自助や共助でどれくらい被害を小さくできるのかを示し、府民の意識を変える流れを作ることが重要。
- 復旧の遅れによる事態の悪化をシナリオに盛り込み、復旧・復興の重要性を理解してもらう
- 広域災害では、他府県や自衛隊からの支援がすぐ得られるとは限らない。様々なシナリオを示すことが重要である。
- 公助には限界があるということを示し、府民の生活を中心としたシナリオ。
- 政府や自治体ができることには限界があり、自助、共助の重要性を理解してもらう必要がある。

【視点⑥-2】府民への伝え方（津波浸水想定）

- 地震発生から時間経過による状況の変化等を示すことも重要。
- 津波被害の時間的な流れを示し、避難中に何をしないといけないのか。いつまで避難しておかないといけないのかを事前に理解してもらうことが重要。
- 満潮と干潮の差により、地震発生から長時間経過しても満潮と重なれば津波は大きくなる可能性があることを府民に理解してもらい、勝手に判断して帰宅せず、長時間にわたって避難が必要であることを常識としてほしい。
- 浸水後に水がなかなか抜けない地域もあり、水が抜けない状況での避難を強いられる可能性があることも整理しておくとい。
- 浸水想定をもとに避難してもらうための見せ方・伝え方を考える必要がある。
- 現在の浸水想定図には着色されていない地域でも浸水する可能性があることを示すために矢印を入れている。津波の特徴をもっと府民に分かりやすく伝えることが重要。

対応方針

- 災害シナリオの作成にあたり、いただいた意見を基に今後、部会での議論をお願いしたい。

- いただいたご意見のポイント

【ねらい】

- ✓ 住民の意識を変え、個人の行動の変容
- ✓ 地震により生活がどのようになるかのイメージ

【表現方法】

- ✓ 自助、共助による被害の軽減を示し、府民の理解を得る。
- ✓ アクションの有無により、シナリオを分岐させて表現

【内容】

- ✓ 復旧の遅れによる事態の悪化
- ✓ 広域災害による応援・支援の有無
- ✓ 公助（政府や自治体）の限界と自助・共助の重要性
- ✓ その他、第3回部会までにいただいたご意見から抽出

- 津波浸水想定区域図の公表に併せて、いただいた意見について留意事項として記載する。

- また、あわせて災害シナリオにも反映する。

- いただいたご意見のポイント

- ✓ 地震発生から津波被害の発生に至るまでの時間経過による状況の変化
- ✓ 津波避難における留意事項の整理（いつまで？避難中の行動）
- ✓ 干潮・満潮による津波被害の変化
- ✓ 長期にわたり浸水が継続する地域がある点の理解（津波避難ビル等に避難した場合、水が抜けない状況での避難の可能性）
- ✓ 津波浸水想定を避難につなげるための伝え方
- ✓ 津波浸水想定は一定の条件下のシミュレーションの結果であり、浸水範囲は状況により変化することの理解

今後のスケジュール

開催回数	主な議題
第 1 回検討部会 (令和5年6月28日)	- 現在公表している被害想定 - 大阪府の実施してきた施策 - 社会情勢の変化
第 2 回検討部会 (令和5年12月20日)	- 大阪府が実施してきた施策の効果検証 - 民間企業の地震津波対策 - 地震動の設定手法
第 3 回検討部会 (令和6年11月7日)	- 被害想定 of 項目 - 津波浸水想定 of 検討
第 4 回検討部会 (今回)	- 被害想定手法 - 災害シナリオ of 検討
第 5 回検討部会 (令和 7 年度)	- 内閣府公表 of 南海トラフ巨大地震被害想定 - 地震動 of 算定 (直下型・南トラ) - 津波浸水想定 - 災害シナリオ of 検討
第 6 回検討部会 (令和 7 年度)	- 被害想定 (直下型・南トラ) of 検討 - 災害シナリオ of 検討
第 7 回検討部会 (令和 8 年度)	報告書とりまとめ

※開催回数及び主な議題は現時点の案であり、検討部会の議論等によっては回数を含めて変更する可能性がある